



新病院長の紹介

天草市立牛深市民病院



院長
松崎 法成

平成二十九年四月一日付けで天草市立牛深市民病院長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

私は平成元年に熊本大学を卒業後、熊本大学第二外科（現在の消化器外科）に入局し外科の研鑽を積んだのちに、当地牛深に外科医長として赴任しましたのは平成十七年秋でした。前任の先生と交代で医局人事で一年間の単身赴任の予定でしたが、ちょうど当時の内科院長の退職に伴い常勤医が相次ぎ退職される事態となり頼られるがまま牛深での診療を続けるに至り、気付けば十二年間ここで外科、消化器科の診療を地域の方々

の信頼を得て行ってきました。牛深地域は熊本市から約一〇二km、南西の天草下島の最南端に位置し、人口約一・四万人、海は美しく自然豊かな町です。「牛深ハイヤ節」で知られているとおり昔から漁業を基幹産業とした全国に名を馳せた港町です。海鮮類は言うまでもなく一級品で、全国的に見てもひけを取らないと実感しています。

当院は炭鉱関係診療所として昭和二十五年に開設され、その後変遷を経て、平成十四年三月に現在の西に牛深港と東シナ海を望む高台に新築移転されました。平成十八年の市町合併により天草市となり、現在は天草市立牛深市民病院となっております。南天草地域（旧牛深市域）の中核病

天草中央総合病院



院長
芳賀 克夫

平成二十九年九月一日付で地域医療機能推進機構天草中央総合病院の院長を拝命しました。浅学非才ですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は昭和五十七年に熊本大学を卒業しました。学生時代はラグビー部に所属し、熊本赤十字病院の平田稔彦院長とは同期で、六年間楯円球を追いかける毎日でした。大学卒業後は、熊本大学第二外科に入局しました。その後熊本大学大学院を卒業し、米国のネブラスカ大学内科学教室に客員研究員として留学しました。帰国後は、大牟田三井病院（現大牟田天領病院）、国立熊本病院（現国立病院機構熊本医療センター）等を経て、熊本大学大学院消化器外科学教室の馬場秀夫教授のご高配により当院に赴任した次第です。

天草中央総合病院は天草下島の本渡地区にあり、昭和二十一年に開設されました。永らく熊本大学の関連病院として、地域医療に貢献してきました。現在は、常勤医師十六名（内科、外科、産婦人科、放射線科、脳外科、麻酔科、歯科、口腔外科）で病床一五五床を運営しています。この他、大学病院の皮膚科、血液内科、循環器内科、放射線治療科、代謝内科、呼吸器外科、歯科口腔外科、乳腺内分泌外科、病理診断科から、非常勤の先生方を派遣していただ

いております。病院の主な機能としては、熊本県災害拠点病院、第二種感染症指定医療機関、熊本県がん診療連携拠点病院、熊本県地域産科中核病院です。この他、老健施設のさわやかランドと健診センターを併設し、医療・福祉・予防医学を一体的に運営しています。医局内は、毎週木曜日

統一を図っています。また、医局懇親会はほぼ毎月開催し、天草の地魚をみんなで堪能しています。

私は天草に初めて住むことになりましたが、実にいい街です。本渡地区は、スーパーやレストラン、各種ショップが立ち並び、生活には困りません。住民は人柄が実によく、宿舎から病院に歩いていくとき、「院長先生、お早うございます」と声を掛けられることがあります。職員も純粋で楽しい職場環境です。

天草地域では、天草地域医療センターと上天草総合病院と当院の三病院が中心となり、急性期医療を担っています。天草地方は橋で熊本県本土とつながっていますが、災害が起これば、橋が落ちた時は、自力で災害医療を実践し、四十八時間は持ちこたえる体力が必要です。従って、当院はさらに内科医、整形外科医、麻酔科医等の医師を確保し、体制を充実させていく必要があります。それに向けて、当院の医師が国際学会で発表し、英語論文が書けるような環境を整備し、自己研鑽と研究活動の場を提供していきたいと思

一方では、市民公開講座や出前講座を積極的に行い、地域住民への啓蒙活動を行っていきたいと思

熊本大学関係者の皆様には、当院を温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。